

## わかる授業を目指して

羽島高校では「わかる授業」を追求するため、教員の校内研修として教科ごとの授業研究を進めています。今回（12月13日）は、地理B（地理歴史・公民科）の授業で、授業のポイントは、「自分の地域で起こり得る自然災害を考える」でした。

本時の授業では、生徒は出身地域別にグループを組み、最初に宮城県に在住していた教員が撮影した東日本大震災における内陸部での被害状況をスライドショーで学び、感想を書きました。次に、出身地域の25000分の1の地形図を見ながら、自分の地域で起こり得る自然災害や二次災害などを考え、思いついたものを付箋に書いて地図に貼り付け、グループ内でまとめたものを代表者が発表しました。そして最後に羽島市内の危険箇所を再びスライドショーで確認し、各自で考察をまとめ、プリントに書いて提出しました。

東日本大震災の内陸部の被害状況については情報が乏しく、なかなか知られていません。現地で起きていたことは、羽島市でも起こります。だからこそ、生徒たちが自分たちの住む地域と似た地域の実際の被害状況を知り、同じ地域に暮らす仲間と考えることで、防災意識や減災力の涵養を図ることが重要です。この授業では、非常に活発に話し合いが行われ、多くの意見が出ました。こうした若い生徒たちが、地域の防災に寄与することを願います。

